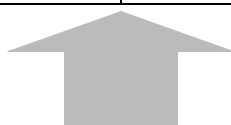


檜枝岐小中学校 音楽科教育全体計画

めざす児童生徒の姿

小学校	中学校
<ul style="list-style-type: none"> ◇曲想と要素の働きを関わらせて感受する力が身についている児童 ◇感受したことを基に創意工夫し、思いや意図をもって表現する力が身についている児童 	<ul style="list-style-type: none"> ◇曲想と要素の働きを関わらせて感受する力が身についている生徒 ◇音楽を形づくっている要素の働きを知覚し、感じ取ったことを根拠をもって批評する力が身についている生徒



めざす児童生徒を育てる、9年間連続して取り組む学習スタイル

子どもの思いや意図を 音楽表現に生かす学習の充実	連続性・系統性を踏まえた 指導内容の精選
<ul style="list-style-type: none"> ○言語活動などを通して深めた児童生徒の思いや意図を、歌唱・器楽、音楽づくり（創作）の活動の中で、技能を高めながら表現する時間や場を大切にす。 ○想像したり、感じ取ったりしたことを互いに伝え合う場を設定し、一人一人の感じ方のよさを認め合えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒の発達段階に応じて、低・中・高（A・B年次形式）及び中学の連続性や系統性に配慮した歌唱、器楽、創作、鑑賞ごとの適切な指導内容を示す。 ○〔共通事項〕の指導については、意図的、計画的に取り上げ、9年間を通して、系統性のある指導ができるようにする。



改善すべき児童生徒の実態

小学校	中学校
<ul style="list-style-type: none"> ■曲想を感じ取りながら、思いや意図を持って表現したり聴いたりする力が十分でない。 ■音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組み、よさを感受する力が十分に身に付いていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ■曲想を感じ取りながら、思いや意図を持って表現したり聴いたりする力が十分でない。 ■音楽を形づくっている要素の働きが生み出す音楽のよさや美しさについて、言葉で表現する力が十分に身についていない。